

## 【笠井肥後守満秀の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち



・笠井満秀について武田軍の軍記『甲陽軍鑑』には、【命は 義より軽い御恩に報いる為の我が命】と記され武田勝頼の旗本で、勝頼の敗走を見届けて、自ら勝頼の馬にまたがり、滝川助義と死闘を繰り広げ相討死したと伝わる。

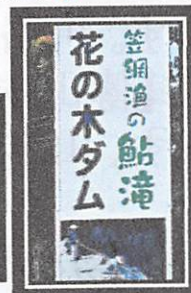
渡河の寒狭川近くの出沢の【龍泉寺】の裏に立派な塚が建立された。



## 【笠井肥後守満秀の塚へのタイムスリップ】

場所 新城市出沢的場田：龍泉寺

・新城総合公園裏手の出沢地区の【龍泉寺】の裏の出沢公民館に隣り合って【笠井肥後守満秀】の墓域が在ります。



・武田軍退却の古戦場跡 お食事は花の木公園で三河のナイアガラの滝を見ながら！ お話も店主の丸山様に伺うことも出来ます。



## 【山本勘蔵信供の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

か 勘蔵は  
この地に死して名を残す

・山本信供の墓  
川路 下川路

・山本勘蔵は、山本勘助晴行の次男で24歳で奮戦勇戦の末、長篠城に近い有海原辺りで討ち死にした記録がありますが、塚は何故か遠く離れた設楽原の、勝楽寺前激戦地の畑中の位置に在ります。

・父の山本勘助は、武田信玄に仕えた軍師として名高く、諸説ありますが、豊橋市加茂町で生まれたと伝わります。幾多の苦難を乗り越えて、武田家の軍師として花咲きます。

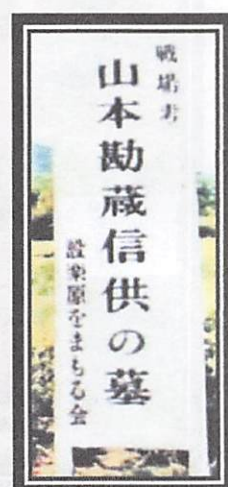
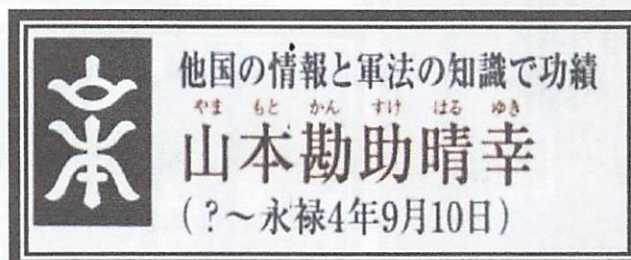


## 【山本勘蔵信供の塚へのタイムスリップ】 父は軍師山本勘助 場所 新城市川路字下川路

- ・山本勘蔵の塚は、勝楽寺前激戦地を豊川に向かう畑田の中の、農道脇に在ります。川路の勝楽寺の門前から、200m程の南の田のあぜ道に【傳山本勘蔵信供之墓】と小さな一石五輪塔が祀られています。山本勘蔵は、武田勝頼の旗本付であったと伝わります。

徳川軍の、本多忠勝などの武将の追撃をかわしつつ、設楽原に向かう大海辺りの地で壮絶な戦死をしたと云われています。川路の地元の人々は、山本勘蔵の塚を【カンスケ塚】と呼んで親しんでいます。

父親は軍師山本勘助→



山本勘助の生誕地は、豊橋の加茂町との説があります。新城市黒田にもゆかりの地有



## 【酒井忠次の鳶ヶ巣山奇襲攻撃】

よ 吉川より

豊田藤助先にたち

・松山観音道  
吉川 井田



- ・酒井忠次の鳶ヶ巣山奇襲攻撃隊には、地元の地理に明るい、設楽貞通や野田の菅沼定盈らの武将が先陣を務めていた。塩沢村の、【郷士豊田藤助】が、雨のそば降る闇夜を先導し、足元に注意しながら松山越えの山道を案内していた。やがて松山観音堂に着くと、酒井忠次は、それぞれの武田五砦の攻撃する手はずを整えた。かくて、全将士が兜の緒を締め直し攻撃目標の砦に向け出発した。天正3年の5月21日の午前5時頃のことである。

\*武田軍は長篠城を1万5,000の兵でアリのはい出る隙も無く囲みました。

### 【長篠城包囲配陣表】 : 武田軍の包囲布陣

・大通寺山	馬場信房ら	2,000人
・天神山	土屋昌次ら	2,500人
・篠場野	穴山信君ら	1,500人
・有海原	山縣昌景ら	1,000人
・医王寺山	武田勝頼	3,000人
・鳶ヶ巣山	武田信実ら	1,000人
・岩代	内藤昌豊ら	2,000人
・本陣後方	甘利信康ら	2,000人

武田勝頼源朝臣  
景徳院殿頼山嶽公大昼像



武田軍

・その他 久間砦 中山砦 姥ヶ懐砦 君ヶ伏床砦



武田軍は、長篠城の食糧庫の攻撃で800名程の戦死者を出しています。



【火縄銃の歴史】紀伊の根来、大坂の堺、薩摩の坊津、豊後の森・泉、近江の国友が当時の火縄銃の一大産地でした。

た たぐいなき  
騎馬隊倒す 三千挺

・大宮前遊戦地  
八束橋加野茂



- ①天文12年(1543)種子島にポルトガル人が漂着し二挺の火縄銃を伝えた。
- ②天文22年(1553)織田信長が、斎藤道三と会見した聖徳寺で何挺かの鉄砲隊の記録。
- ③天文23年(1554)【村木砦の戦い】信長と今川との戦いで「鉄砲取り変え〜とある」
- ④元龜 元年(1570)【石山合戦】:信長と本願寺門徒衆との戦いで鉄砲三千挺が使われた。
- ⑤天正 3年(1575)長篠・設楽原の戦いで、武田勝頼と織田・徳川の連合軍との激闘で、三千挺の火縄銃が組織的に使用されたと伝わります。
- ⑥天正11年(1583)【賤ヶ岳の戦い】:羽柴秀吉と柴田勝家の信長の後継者争いの戦い。
- ⑦天正12年(1584)【小牧・長久手の戦い】:徳川家康と、羽柴秀吉との覇権争いの戦い。
- ⑧慶長 5年(1600)【関ヶ原の戦い】:徳川家康と石田三成が戦った天下分け目の合戦。
- ⑨慶長19年(1614)【大阪冬の陣・夏の陣】:徳川家康が豊臣秀頼と争った戦い。

## 【長篠・設楽原鉄砲隊へのタイムスリップ】

### 【信玄砲】

- ・設楽原歴史資料館には、およそ100挺の火縄銃が収集されていて、日本一のコレクションを誇ります。
- ・鉄砲伝来は、【以後予算無し】と語呂合わせで覚えます。  
【1543年】に、種子島にポルトガル人が2挺の火縄銃を伝えました。種子島では、当時海岸で良質な砂鉄が取れました。八板金兵衛が苦心の末に、尾ねじの仕組みを解明し待望の火縄銃を一年後には完成させました。
- ・決戦場まつりでは、馬防柵再現地で、地元の長篠・設楽原鉄砲隊が【鉄砲三段撃ち】の演武を披露しています。  
竹広の信玄塚では、火縄銃の礼射を戦没者の御霊に捧げます。
- ・空砲ながら、間断なく響き渡る【銃声】と立ち上る硝煙】が、関係者と多くの観客を魅了します。

・決戦場まつり  
馬防柵再現地





## 【馬防柵再現地】



れ 連吾より浜田に  
つづく馬防柵

・須長公会堂南50m  
須長 浜田

- ・織田信長と徳川家康は、5月18日に設楽原に到着すると、2日半で連吾川沿いに、須長の浜田から竹広の連吾迄2<sup>キ</sup>。半に渡り二重三重の【馬防柵】を築きました。弾正山を陣城化して、戦国最強と言われる武田軍の騎馬隊を撃破した。
- ・この戦いでは、火縄銃が大量に効果的に使用され、その後の築城方法、戦術にも多くの変化をもたらした。清和源氏からの名門武田氏は、この戦いを機に衰退の道を歩むことに成った。



## 【馬防柵再現地へのタイムスリップ】：戦いの跡 場所 新城市大宮字清水：弾正山東裾

- ・設楽原をまもる会は、1981年に前長120mの【馬防柵】を手造で再現しました。織田信長と徳川家康は、極楽寺での軍議を基に、設楽原のここに到着すると、馬防柵を2日半で築きました。
- ・馬防柵のここからは、武田勝頼観戦地【才の神(アカハゲ)】が連吾川を挟んだ左前方に見ることが出来ます。
- ・織田軍と徳川軍の、馬防柵の虎口(出入り口)の違いが忠実に再現されています。
- ・鳥居強右衛門が、長篠城を脱出して狼煙を上げた雁峰山の涼み松が丸山砦趾の上方向に見えます。
- ・連吾川は、河川改修前は、台風で常に溢れる様な小川で、周辺の田は明治8年の記録では、下田と記録された沼田でした。

- ・鉄砲三段撃ちの解説は『諸説あります』武田軍の騎馬は、疾走して瞬く間に馬防柵に到達します。その為  
①玉を込める兵士。②その銃を渡す兵士。③鉄砲を撃つ兵士の3人の分業体制が今では有力です。諸説あります。



当時の馬は、サラブレッドでは無く木曾駒の様な背が低い足の太い馬18



## 【牧野文齋と牧野文齋記念公園】

- ・牧野文齋は、八束穂の信玄病院の医者で、大正3年5月に【長篠古戦場顕彰会】の中心人物として尽力され、武田諸将の立派な墓碑11基を建立した。
- ・この他、案内石標を設楽原から長篠城址にかけ、43基を設置した。尚、文齋遺稿集として【設楽原戦場考】が出版された。信玄病院の跡地が現在【牧野文齋記念公園】になっている。この公園碑は、孫の牧野尚彦氏の建立である。



⑦ そこかしこ顕彰碑  
たてし牧野文齋

・八束穂 天王山



## 【牧野文齋記念公園へのタイムスプリット】

場所 新城市八束穂八子971番地

- ・公園は、平成21年4月18日に信玄病院の跡地に出来ました。八楽児童寮の道を挟んだ前に在ります。石造りの大きな2本の門柱が、往時の信玄病院の隆盛を偲ばせます。
- ・明治・大正・昭和と、信玄病院は、県内でも有数の入院病棟を持つ病院でした。信玄病院へ行く道の左右には、駄菓子屋、旅館、たねや、提灯屋、綿屋等が繁盛しました。文齋氏は、病院経営の傍ら、地域の振興事業にも多くの貢献を果たしました。牧野文齋氏の【長篠古戦場顕彰会】は、史跡保存に尽くし、古戦場に多くの墓石碑を建立して、戦没将士の慰霊に勤めました。【長篠古戦場顕彰会】の思いは、現在【設楽原をまもる会】に引き継がれています。

ありし日の信玄病院



⑦  
そこかしこ  
顕彰碑たてし  
牧野文齋  
設楽原古戦場  
いろはかるた



## 【土屋右衛門尉昌次の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

㊦ 土屋昌次柵に  
とりつき大音声

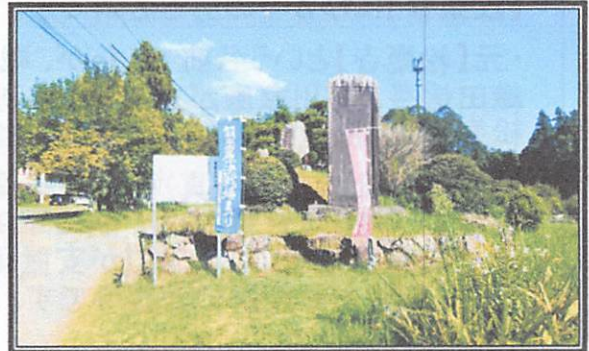
・土屋昌次戦死の地  
馬防柵再現地

・武田信玄公以来の重臣で、金丸平八郎と称していたが、元亀元年、名族土屋氏の名跡を与えられた。武田軍の右翼隊に属し戦いの時第二の馬防柵を突破し、第三の柵にたどり着いた時、火縄銃の玉に当たり討死といわれる。

・【ただ今、君のため心おきなく討死し、高恩を地下に報いん】と呼ばわる土屋昌次の大音声は、いつまでも人びとの耳に残り、敵も味方も、その壮絶な最期を称えて惜しまなかったと云われている。



馬防柵の石碑



## 【土屋昌次の塚へのタイムスリップ】

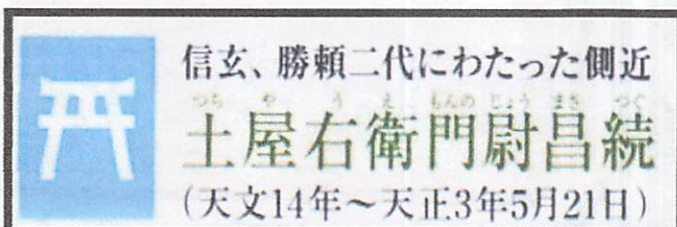
八楽児童寮事務所前に在る太田夫妻の胸像→

場所 新城市八束穂字八子



## 【つ】土屋昌次 柵にとりつき大音声・イロハカルタ

- ・塚は、八楽児童寮を過ぎて、50メートル程歩いた右手奥に在ります。大正3年に【長篠古戦場顕彰会】より建立された石碑と、大正6年に子孫の土屋正直氏によって立てられた、いくつかの石碑が在る大きな墓域です。
- ・塚の隣のカルムの家は、八楽児童寮を単立った若人・家族が、帰郷のさいの【家】として建てられました。太田順一郎・松枝御夫妻は、子供たちの【鐘の鳴る丘・希望の家】として尽力を注ぎ、八楽児童寮を創設し【多くの夢と希望】を子供達に捧げ現在に至っています。
- ・八束穂信玄地区の歴史です。



## 📍 八楽児童寮



設楽原には、設楽原をまもる会等の活動に依り多くの史跡が護られています。



## 【聖堂山勝楽寺曹洞宗】

ね なんごろに

・飯田線三河東郷駅南  
川路 夜燈

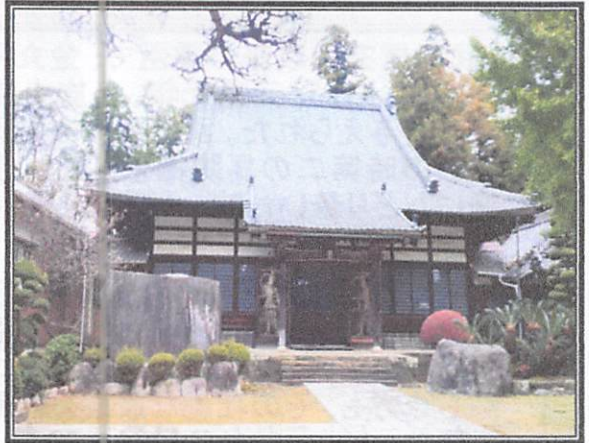
まつり絶やさぬ勝楽寺



・聖堂山勝楽寺は、JR三河東郷駅の前に在るお寺で、長篠・設楽原の戦いや、川路城主【設楽家】にゆかりのある名刹です。

・元【松楽寺】という名前でしたが、戦勝側の、織田信長と徳川家康が立ち寄り勝利に因んで、松楽寺を【勝楽寺】に改めたと云われている。

・勝楽寺には(右上写真)両軍の戦没将士の位牌115基【連合軍19柱、武田軍95柱、戦没者一切諸霊位牌の115柱】が安置祀られている。川路城主設楽家の菩提寺です。岩瀬忠震の顕彰碑が在る。



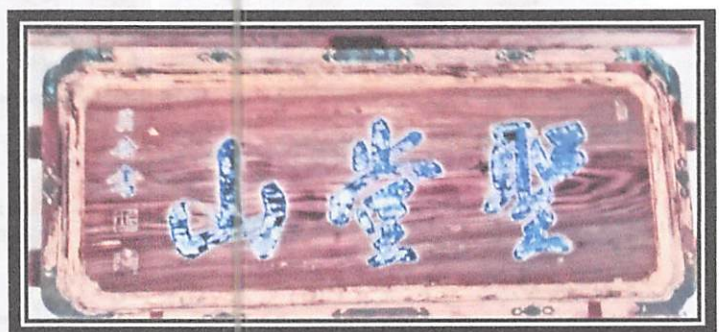
## 【聖堂山勝楽寺へのタイムスリップ】

場所 新城市川路字夜燈:JR三河東郷駅前

- ・勝楽寺の国道151号線に面した所に【ね】なんごろにまつり絶やさぬ勝楽寺・のイロハカルタの看板が立っています。
- ・勝楽寺は、設楽原の決戦当時は【勝楽寺前激戦地】となりました。家康家来の大久保忠世・忠佐兄弟と、山縣昌景隊が、死闘を繰り広げました。周辺には、山本勘蔵の塚・高坂昌澄の塚が点在します。
- ・本堂の入り口に掛かる【扁額】は、西郷隆盛と一緒に鹿児島島の錦江湾で入水自殺を計った【月照】の兄弟弟子の【月舟】が書いたものです。庫裏に、つるされている空道和尚作と伝えられている【魚鼓】も扁額と同じく、勝楽寺に大切にされ【寺宝】に成っています。
- ・旗本設楽家の菩提寺であり、岩瀬忠震公の顕彰碑があります。



岩瀬忠震公の顕彰碑と扁額





## 【内藤修理亮昌豊の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち



・武田信玄公以来の、武田四将で、上野箕輪城代内藤昌豊は、武田軍の中央隊長として、天王山に布陣して、陣地を保持するために、連吾川沿いの、柳田前激戦地に6度打って出て、激しい戦いを展開したと伝わる。戦況不利と見て、大将の武田勝頼公に戦線離脱を進め、この地で壮絶な最期を遂げた53歳でこの地で戦死。



## 【内藤昌豊の塚へのタイムスリップ】

場所 新城市八束穂字天王：天王山公園奥

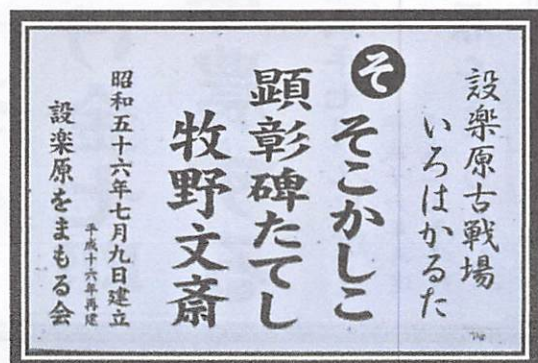
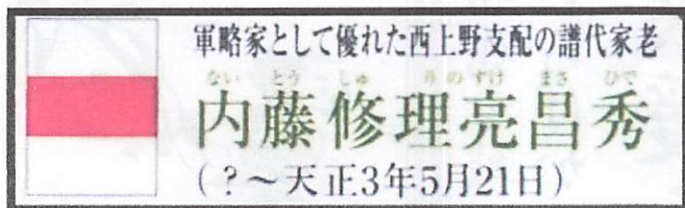


・お墓は、資料館前の道路を隔てた、中こども園の天王山広場の奥まった【武田勝頼公指揮の地】の石碑奥に在ります。お墓の横には、設楽原をまもる会制作のイロハカルタ【な】の看板が立っています。

### 【な】内藤の陣地も墓も 天王山

- ・内藤昌豊は、【信虎・信玄・勝頼】の三代に仕えた老臣の一人で、信玄に重く用いられました、弓矢の名手として活躍して、織田・徳川軍の築いた馬防柵を破るなど烈しい戦いを展開しました。
- ・『本多忠勝家武功聞書』によれば、内藤昌豊の兵二十余人が、第三の柵を乗り越え押し込んで来た記述があります。
- ・内藤昌豊の年齢は、書物により54歳、60歳とも伝わります。

天王山に立つ看板👉





# 【もう一人の岡崎への援軍要請の使者】 鈴木金七郎重正



⑤ 来援を見届け  
金七郎帰農する  
・高永川上 禅海寺

- ・鈴木金七郎は、新城市富永(旧川上村)の生まれで設楽原の戦いに徳川配下として、鳥居強右衛門と共に長篠城を脱出して、雁峰山で脱出成功の合図の狼煙を上げ【長篠・設楽原の戦い】の勝利に大きく貢献した。
- ・岡崎からの帰り道が二人の運命を大きく分けた。強右衛門は、武士の鑑として郷土の英雄になる。金七郎は、家康の道案内を果たしたが、戦い後は戦いの悲惨さや、人の世のはかなさを覚え、作手の大田代に隠居して帰農の道を選んだ



## ④ 我らの鈴木金七郎(応援歌)

【鈴木金七郎の業績を見直す会】では、様々な地域活動を通じて鈴木金七郎重正を顕彰して、多くの方に業績を発信しています。

・鈴木金七郎は、川上村のうまれで戦いの伝令の役目を果たした後は、作手の田代に帰農した。以下は会の活動内容の報告です。

- \* オリジナル応援歌【我らの鈴木金七郎】製作
- \* 創作講談【もう一人の鳥居強右衛門:鈴木金七郎】
- \* 狼煙場の【ノタバ】へ行こうハイキング
- \* 鈴木金七郎物語:カラクリブックス製作
- \* 狼煙場ウォーク
- \* 鈴木金七郎を見直そう講演会の実施
- \* 鈴木金七郎の看板等の制作・設置
- \* 決戦場まつり:長篠のぼりまつり:作手古城まつり等でPR



設楽原古戦場  
いらはかるた  
⑥  
来援を  
見届け金七郎  
帰農する  
昭和五十六年七月九日建立  
平成十六年再建  
平成二十九年改訂  
設楽原をまもる会

